

自治組織「共和の郷・おだ」、小田地域センター

739-2207 広島県東広島市河内町小田 2182

TEL: 082-438-0166 ホームページ <http://kyouwanosato-oda.com/admin>E-mail mail@kyouwanosato-oda.com

農林水産省

谷合正明副大臣来訪(9月12日報告)

集落営農の経営発展に取り
組む農事組合法人ファーム・
おだと自治組織「共和の郷・お
だ」の新2階建て方式による地
域づくりの現地調査及び関係
者との意見交換が小田地域セ
ンターを会場に行われました。

意見交換では、最初に住原
自治会長から、当地区の概要
や集落崩壊の危機感からの自
治組織の設立経緯、農村振
興部が中心に「農事組合法人
ファーム・おだ」が設立されたこ



と、新2階建て方式を取り入れた、1階部分に自治組織(農家・非農家)、2階部分に(農)ファーム・おだ・こうち交流促進施設運営協議会(寄りん菜屋)、河内パークゴルフ場が連携する地域づくり、小田の「未来創生図」ビジョンマップの取り組みを説明しました。

続いて、森原組合長から、ファームの概要と経営発展の取り組み、特に6次産業化推進では、米粉パン工房「パンとマイム」経営に関し、国として定めていない米粉表示の確立や販路拡大の支援等述べ、吉弘顧問からは、当地区の基盤整備から40年余り経過し、早急な排水対策の必要性和それに係る国からの財政支援、土づくりでは、集積農地は、耕畜連携でしっかりとした土壌改良を行い、地力を回復し農産物を高品質的かつ効率的に生産している。こうした取り組みへの支援策として、東広島管内で大規模な堆肥の生産工場があればと考える。そこで市が国へ計画書を提出している循環型農業に関する計画書の採択をお願いするなど意見交換をしました。その後、パンとマイムや寄りん菜屋を視察し、パンマイムでは、米粉パンの食味など従業員との会話に米粉普及への意欲など意見交換がされました。

当地区への農林水産副大臣の来訪を受け、改めて地域づくりへの取り組みが広く認識され、また評価されていると実感しました。私たちの目標である「誇りの持てる、住み良い、和やかな郷づくり」に向け皆様と力を合わせ着実に進めてまいりましょう。

(自)「共和の郷・おだ」会長住原正弘

第4回 健康づくり教室(10月25日ご案内)

日ごろの体力を知るために体力テストを実施し、自分の体力にあわせた健康づくりを指導します。お気軽にご参加ください。

と き:平成29年 **10月25日**(水)

時間13:30~15:00

ところ:小田地域センター

内 容:体力テスト実施

講 師:酒井紀子先生

持参物:汗拭きタオル、普段はいている運動靴、お茶は用意しています

(自)「共和の郷・おだ」(白竜部・体育健康部)、小田地域センター



体力測定の様子

おだレディース パークゴルフ大会(10月29日ご案内)

体力づくりと交流を深めるため開催します。

日頃のストレスを発散し、おしゃべりをしながらプレーを楽しみませんか……

申込みは、各組女性役員へお願いします。

多数の参加をお願いします。

と き:平成29年 **10月29日**(日)

時間14:00~

ところ:河内パークゴルフ場

参加費:500円



(自)「共和の郷・おだ」女性部 部長 村上恵美子

金婚式をお迎えの方（お知らせください）

今年、結婚して 50 年目の金婚式をお迎えになられる
ご夫婦の皆様おめでとうございます。

福祉ふれあい部では、表彰状と記念品をお送りしお祝
いします。昭和42年にご結婚された方で表彰は、11月
19日（日）開催の農産物品評会で行います。



10月10日までに、該当される方は、組代表委員へ氏名をお知らせください。

（自）「共和の郷・おだ」福祉ふれあい部 部長秋山勝義

こうち再発見 『ぶらぶら河内』



白竜湖方面

瀬谷方面

河内生涯学習支援センター・町内各地域センターでは、12回にわたり河内町の四季折々の美しい自然や歴史文化に触れながら、みんなで楽しく歩いて探訪します。9回目は、小田八幡神社周辺（小田西側）をウォーキングします。事前に小田地域センターへ申込みください。

多数の参加をお願いします。

日時：平成29年 10月27日（金）

受付 9：00～

出発 9：30

小田地域センター帰着予定 12：00

集合場所：小田地域センター

保険代実費：24円

小田地域センター

みんなみんぜミと河内西小学校による 河内西フェスタ開催のご案内(11月11日)

東広島芸術文化ホールくららにおいて、民話を紙芝居に次世代へ引き継ぐ活動をするみんなみんぜミと河内西小学校児童(学習発表会)と一緒に初の河内西フェスタを開催します。



河内西小学校児童

このフェスタでは、県内で民話紙芝居活動をされている団体の出演もあり、このフェスタを通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、家族や地域との絆を大切にする子ども達になればという思いを込め、子ども達の未来にエールを贈ります。会場までは、バスの運行を考えております。

小田地域皆様の暖かいご支援と多数のご出席をお願いいたします。

プログラム、小田からの送迎バス運行時間等について、11月のたよりでお知らせします。

日時:平成29年 **11月11日(土)**

会場12:30～ ・開演13:00～16:00

場所:東広島芸術文化ホールくらら(小ホール)

みんなみんぜミ代表 末岡紀代美
(自)「共和の郷・おだ」教育文化 部長土肥光晴

新たな市立小学校の統合基本方針 に基づく統合計画について(経過報告)

市内7校(吉川小・志和堀小・竹仁小・久芳小・河内小・河内西小・木谷小)を対象に複式学級の解消を目的とした統合基本方針(案)の説明会が河内西小学校で、平成28年2月13日・河内小学校平成28年2月27日にそれぞれ行われました。

統合計画では、河内小学校へ河内西小学校を統合する。時期は30年4月目標、統合後、将来的に河内中学校との小中一貫

校を検討する。が主な内容です。(その時の会議要点記録が市教委のホームページへ公開されていますので、内容を掲載します。)



保護者と意見交換(8/21)

理由として(統合計画抜粋)

「河内西小は、今後6年間のうち3年間で完全複式学級となることが見込まれており、河内小においても平成28年度から過小規模が恒常化する見込みである。将来的には小中一貫教育を導入することによって、教育環境の改善と教育内容の充実を図ることを検討していく。

児童数の見込み(人)

校名	H18実績	H27実績	H33見込
河内小	101	49	55
河内西小	72	29	28
統合校	173	78	83

河内小・河内西小の統合計画【再掲】

H20計画	H27年度計画	
河内小に河内西小を統合する。	統合校	河内小
	廃止校	河内西小
	時期	平成30年4月(目標)
	検討	統合後、河内中との小中一貫校を検討

と記されています。

このことについて、統合協議会が設置され、第1回目の会合が去年の7月8日に開催され、それ以降、今日まで開催されていません。

そこで、小田地区からは、13名の児童が通っており、本自治組織三役会議を開催し、保護者10名と8月21日に意見交換を行い共通した課題を共有し協議することとしました。

保護者は、一致して複式学級の解消を望む、河内小への統合に対しては、河内小の駐車場の確保や芸予地震のダメージなど安全面に不安を感じる。教育環境、立地状況、交通の利便性など再考願ひ河内小と一緒にするのなら河内西小へ来てもらいたい。小中一貫校の時期を明確にしてもらいたいなどの意見でした。このことを役員会へ報告し、役員会では、保護者の意見を尊重し、今後開催される統合協議会へ望むこととしました。

また、平成29年9月5日付けで、東広島市長、教育委員会教育長へ西小学校区自治会長、河内小・河内西PTAの会長連名をもって要望書の提出を行いました。

小田小学校は平成16年に閉校し河内西小へ統合し、再び新たな統廃合計画方針が示されました。皆様のご意見をお聞かせ下さい。

(自)「共和の郷・おだ」会長 住原正弘

以下説明会要点記録(市教育委員会ホームページより)

河内西地区における「新たな市立小学校の統合基本方針(案)」の説明会の要点記録

1 日時 平成28年2月13日(土) 13時30分～15時30分

2 場所 河内西小学校

3 参加者 自治協議会役員及び地域住民 53人

4 主な質問等

(質問)

平成30年に河内小と統合しても適正規模にならない。なぜ、町で1校にしないのか。

(回答)

各町に1校は学校を残し、複式学級の解消を優先していくことが市の方針である。河内小、河内西小は複式学級が続く見込みであることから、2校を対象に統合していきたい。

(質問)

小規模の統合を考えることも必要だが、小中一貫を考える時期にきている。そういうことを考えて取り組んでほしい。

(回答)

小中一貫を目標に考えているが、施設整備にも時間がかかる。まずは複式学級の解消のため、2校の統合を優先して一貫校化に向けて取り組んでいく。

(質問)

なぜ児童の多い学校から少ない学校へ統合するのか。

(回答)

仮に河内西小に統合するとなったとき、学校に通うほとんどの子ども達がバス通学になる。ある程度徒歩で通える圏内という考え方もある必要だと思っている。

(質問)

河内西小は保育所が隣にあるというのも一つのメリットだと思う。

(回答)

その通りだと思うが、小中一貫校のスタイルでも、小学校と中学校が一体的に9年間を通して学習活動が進められるというメリットもある。そういった観点も含めて将来的に小中一貫校を目指していきたい。

(河内西小PTA会長)

保護者の意向についてアンケートを取ったので報告させていただく。統合自体については避けられない状況であり、多数の方が統合を望まれているが、河内小と統合してまた何年か後に一貫校へと何度も統合を経験することは避けたい。河内小は駐車場の問題や芸予地震のダメージを見ると安全性の面で保護者は不安に思っている。教育環境、安全性、立地状況、交通の利便性などを十分考慮したうえでもう一度考えていただきたい。保護者としては、河内小と一緒にいるのであれば、河内西小へ来てもらいたい。小中一貫校にしてもらえるのなら速やかに小中一貫校にしてほしい。

(回答)

小中一貫とすると施設整備が必要で、それには時間がかかる。最初から小中一貫という気持ちはわかるが、志和小中一貫が4年後なのでどんなに早くてもそれから先以降のスケジュールになってしまう。福富・河内は複式学級となっているので早急に複式学級の解消を優先していきたい。

(回答)

子どもが成長していくうえで多くの子ども達と触れ合ったりする機会を学校環境の中で子ども達に作っていききたい。過小規模校の解消は進めさせていただきたい。

(質問)

河内西小が河内小へ統合したら保育所も人数が減っていくと思う。河内西小へ統合して保育所も活かしていく形もあると思う。

(回答)

保育所は特に指定された地域がないが、小学校は学区が決まっている。学校の配置と保育所の配置は一緒には論じられないところがある。

(意見)

子どもの幸せや教育条件を考えたときには、柔軟な発想で子どもの幸せにつながる、条件が素晴らしいものになるなら、そういう発想もいいと思う。そこは地域の人の意見を尊重していただければと思う。

(質問)

河内小の保護者に対して、河内西小の保護者から河内西小へ来てほしいという意見が出ていることを教育委員会から説明されているのか。

(回答)

河内小で説明したときに河内西小へ行きたいといった意見はなかった。どちらかというと小中一貫校にという意見が多かった。

(質問)

河内小の耐震性能は大丈夫と書かれているが、どの程度大丈夫なのか。

(回答)

耐震性能については、文部科学省はI s 値 0.7 を基準にして、耐震化を図っている。河内小は全部で3棟あるが、数値的に問題ない。ただ、I s 値が 0.7 以上あれば被害がゼロになるという意味ではない。

(質問)

地域と学校は切り離せない。河戸地区は、体育館が無くなってスポーツなど何か行事をするには、この学校の体育館しかない。それを考えたら残した方がよい。

(回答)

跡地利用については、統合準備会の中で協議をさせていただきたい。

(質問)

河内小から河内西小への逆の案も作って説明会をしたらどうか。

(回答)

この案が教育委員会の案ということでお示ししている。今のところ教育委員会から別の提案をすることは考えていない。

(質問)

小中一貫とは同一敷地でないといけないのか。入野小へ統合して、名前を河内小とすれば、中学校との小中一貫校にはならないのか。

(回答)

市では、独自の定義として離れた場所で行っているものは小中接続教育、学校が一体となったものを小中一貫教育としている。小中接続の推進については、数年前から取り組んでいる。河内小と河内西小は将来的には河内中の一体化した施設の中で小中一貫教育を行い、入野は場所が離れているので、これまでの小中接続教育を継続していきたい。

河内地区における「新たな市立小学校の統合基本方針（案）」の説明会の要点記録

1 日時 平成 28 年 2 月 27 日（土） 19 時 00 分～20 時 20 分

2 場所 河内保健福祉センター

3 参加者 自治協議会役員及び地域住民 108 人

4 主な質問等

（質問）

大規模校より小規模校の方が良いところがたくさんある。統廃合の話が出ているのは、教育予算がないのが原因と考える。予算があれば、河内西小も河内小も存続できるのではないか。

（回答）

小規模校が大規模校に劣るとは全く思っていない。ただ、複式学級が発生する過小規模については、複式学級を解消したいという思いがあり、この統合基本方針を打ち出している。河内のまちづくりを担う子どもたちには、より多くの子どもたちと触れ合い、多くの人間関係の中で様々な体験をし、多くの人の意見を聞く中で育っていく、そういった教育環境が必要ではないかと考えている。小規模校の良さを理解した上で、複式学級は解消していく方針であると理解していただきたい。

（質問）

河内西小の保護者、地域の意見はどうだったのか。

（回答）

河内西小学校区の意見として主なものは、PTAが保護者にアンケートを取った結果を報告され、「統合自体は避けられない状況である」として多くの方が統合を望まれているということだった。しかし、「安全面、財政面などを勘案してどちらに統合するのがよいのかはもう一度考えてもらいたい。河内小は、駐車場の問題、芸予地震によるダメージを受けたことを見ると、安全性の面で不安がある。河内西小の保護者は、河内小が河内西小へ来てもらいたい。また小中一貫校にしてもらえるのなら速やかに小中一貫校にしてもらいたい。」という意見があった。

（質問）

小中一貫校にする場合の目標・効果は何か。「複数学年、複数教科の指導を行う教員に、特別な指導技術が要求される」とあるが、教員不足の問題なのか、教員の指導技術不足の問題なのか、それとも教員を指導する指導者不足の問題なのか。

（回答）

小中一貫校となると、縦に9年間の人間関係ができることとなり、小学生と中学生が触れ合い、関わる場面が出てくることから縦の人間関係に広がりができる。中学生にとっては、小学生の指導的立場に立って、リーダーとしての資質を身に付けていくなどの効果が期待できる。

複式学級における教員の指導の課題は、2学年を1人の教員が担任するので、例えば算数だと3年と4年では教える内容が異なるので、3年を教えている間は4年の学習をみることができないので、いくら教員に指導技術があっても4年生は自習となる。その自習する体制をどう整え、自分たちで勉強を進めていける子どもたちをどう育てていくのかは教員の指導力が大きく影響してくる。

（質問）

相互評価が固定化してしまうことは、統合だけでは解決しないと思う。

（回答）

例えば、7人の学級で自分以外の6人の意見を聞いて育っていくのと14人になって13人の意見を聞きながら育っていくだけでも、広がりが出てくると思う。クラス替えはできないが人数が増えるということは、それだけ人間関係が広がると考えている。

（質問）

広島県で小中一貫校の事例があれば聞きたい。またメリットやデメリットを聞きたい。

(回答)

成果としては、小中の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まったというのが 96%あった。中学校へ進学する不安が減少したというのが 94%あった。広島県内では、府中町や呉市などが実践しており、同じような成果を上げている。

(質問)

小中一貫校が始まる前に具体的にカリキュラムを組むといった取組みはするのか。

(回答)

市内では既に小中の接続教育に取り組んでいる。河内地区では、河内中と河内小、河内西小、入野小においても既に接続教育を行っている。中学校の先生が小学校に行って授業に参加したり、生徒指導面では、小中の担当者が定期的に連絡会議をもって小中で一貫した生徒指導方針をもって指導することによって、中 1 ギャップの解消にもつながってきている。

(質問)

河内中の統合も計画しているのか。

(回答)

福富、河内については、まず複式学級の解消をしたい。河内中については、具体的に精査できていないが、平成 29 年夏からは河内学校給食センターの敷地を活用できる可能性があるのではないかと考えている。

(質問)

河内小への統合が決定事項か。

(回答)

4 月以降に統合協議会を設置して、公式に話し合う場を作りたい。教育委員会の方針は、河内小に統合し、将来的には小中一貫校という形が一番いいと思っているが、河内小か河内西小かというのは統合協議会の中で決めていくものになる。

(回答)

統合は地元の合意形成の中でやっていかなければならないと考えているので、統合協議会の中で地域の皆様がそのような判断をされて、教育委員会もその方向性に確証が持てたらそのように進めていくことになる。

(質問)

小中一貫校を検討すると書いてあるにもかかわらず入野小は入っていない。検討という書き方はそれを含めての検討なのか。

(回答)

基本方針の中では、河内小、河内西小、河内中の小中一貫校の計画である。入野小はそのまま存続し、今進めている小中接続教育を継続していく。

平成29年9月5日

東 広 島 市 長 藏田義雄 様
東広島市教育委員会教育長 津森 毅 様

自治組織「you 愛 sun こうち」 会長 河元

利行



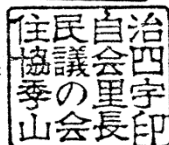
草が城の里・河戸自治協議会 会長 檜山

義記



住民自治協議会「四季の里 宇山」 会長 高橋

昭安



自治組織 ふれあいの里戸野 会長 大月

靖規



自治組織「共和の郷・おだ」 会長 住原

正弘



東広島市市立河内小学校PTA 会長 松原

恵美子



東広島市立河内西小学校PTA 会長 高瀬

朋視



東広島市立河内小学校及び東広島市立河内西小学校の統合について（要望書）

このことについて、「東広島市立小学校の統合基本方針」（平成２８年３月）の内容について、協議を進めて参りました。

児童数減少に伴う２校統合の必要性については一定の理解をしており、学校統合の早期実現の為に、次の内容について要望することとなりましたので、対応いただきますようお願い申し上げます。

１ 要望内容

- （１）過小規模（複式学級）の解消を早期に行うこと。
- （２）河内中学校敷地内での小中一貫教育校開設の早期実現を行うとともに、その開設時期を明確にすること。
- （３）新設される河内小中一貫校における部活動を活性化させる、英語教育を充実させる、ICT 機器を活用した教育を充実させる、地域の教育力を活用した教育を行う等、特色ある教育活動を計画・実践し、児童・生徒に自校及び自地域への誇りを持てるように努めること。

小田診療所ご利用のお願い

東広島市国民健康保険小田診療所は、昭和31年に小田地区の無医地区解消のため開設され、平成16年に、施設の老朽化に伴い、自治組織の強い存続要望活動により旧小田小学校（現小田地域センター）へ移転・開設されました。

現在、所長1名（医師 医療法人 葵会 八本松病院）看護師2名により診療がされています。



小田診療所（小田地域センター）

診療日、診療時間は、毎週土曜日9:00～12:00の3時間となっております。

地域の身近な診療所として多くの皆様のご利用をよろしく申し上げます。

（自）「共和の郷・おだ」総務企画部長 谷平和則

ふれあいいきいきサロン（9月27日報告）

社協 田原さんを講師に、頭の体操やゲームをしながら、大きな笑い声が響きわたり、楽しいサロンでした。昼食は、ボランティアグループ「たんぽぽ」の皆さんによる、旬の食材をふんだんに使った手づくり弁当を皆さんで楽しく、話をしながらいただきました。



サロン会場の様子

（自）「共和の郷・おだ」福祉ふれあい部 部長秋山勝義

みんなの掲示板

けんみん文化祭 2017 東広島地区フェスティバルへ 参加しました(みんなゼミ 活動報告)

平成29年9月10日(日)

東広島芸術文化ホール くらら
(大ホール)にて、「けんみん文
化祭 2017 東広島地区フェ
スティバル」が開催され、みんな



で民話を語るゼミナール(みんなゼミ)が「野呂観音池のオオサンショウウオ」を上
演しました。

広島大学体操部の吉森 健人くん(三次市出身)との新体操パフォーマンス、ギ
ター、バイオリンに加え和太鼓の音も入り、初めと終わりは森原 久美子さんの拍子
木で締めてもらいました。

沼田川銭太鼓の皆さまも
息の合った迫力ある演技で、
会場を沸かせていました。



みんなゼミ 代表 末岡紀代美

「農事組合法人 ファーム・おだ」からお知らせ

秋の感謝祭を開催します。みなさまのお越しをお待ちしております。



と き：平成29年 **10月22日**（日）10時～15時

ところ：寄りん菜屋 周辺ほ場（東広市河内町小田） **雨天中止**

参加費：大人 1,000 円 子供（5才～小学生まで）500 円 4才以下無料
（収穫体験稲刈り、芋ほり・昼食/新米、豚汁・米粉ピザ）

大型農機具展示・農産物販売



主催：農事組合法人 ファーム・おだ

お問い合わせ先：農事組合法人 ファーム・おだ（082）438-0987